

令和4年度第2回 第59回気象予報士試験 合格体験記

1. 自己紹介

・1982年生、女性、会社員。合格時年齢40歳。

・受験歴

	一般	専門	実技
第57回（2022年1月）	×	○	×
第58回（2022年8月）	○	免除	×
第59回（2023年1月）	免除	免除	○

※以下は個人的な主観等も含まれていますのでご注意ください。ご参考にしていただけると幸いです。

2. 勉強の経過

（1）1回目（第57回）受験まで

- ・1回目で一般、専門を突破することを目標とし、2021年8月からU-CANの通信講座を開始
- ・U-CANのテキストが理解できず、本屋で参考書を探していたところ、中島俊夫著「よくわかる気象学」に出会い、勉強が進むようになりました。
- ・主には以下を用いて勉強
 - ・中島俊夫著「よくわかる気象学」「よくわかる気象学（専門知識編）」
 - ・U-CANの通信講座テキスト・課題：一般、専門だけでなく、実技も少し勉強
 - ・気象庁HP：知識・解説のページをチェック
 - ・過去問：第50回～第56回（実技は2～3回分のみトライ）
 - ・「U-CANの気象予報士 これだけ！ 一問一答&要点まとめ」

（2）1回目（第57回）合格発表まで

- ・自己採点で専門のみ合格の見通しとなり、2回目では一般と実技を突破（合格）したいと考え、通学実技講座に通うことに
- ・通学実技講座に備えて基礎知識を身に着けるため「らくらく突破気象予報士実技編」を一読
- ・過去問：第50回～第56回（実技中心）

（3）2回目（第58回）受験まで

<一般>

- ・前回までの勉強に以下を追加
 - ・小倉義光著「一般気象学」：過去問で用いられた図表等を中心にチェック
 - ・過去問：第47回～第57回
 - ・夢☆カフェ家庭教師：苦手な熱力学を克服するため一回受講。いただいた練習問題は繰り返し取り組みました。

<実技>

・通学実技講座

- ・暗記事項（地名、天気記号等）は、資料を縮小コピーして小さめのノートに貼り、赤のチェックペンと緑の下敷きを用いて、講座の前日または当日に毎回チェック。
- ・実技講座で出題された問題と宿題（過去問）は繰り返し取り組みました。解説資料には注意事項を補記したりマーカーでチェックしたりし、苦手なところは付箋を貼って何度もチェック。
- ・実技講座の点数

1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
51点	69点	85点	76点	79点	80点	68点	92点

講師の紺谷さんには、とても細かく丁寧に添削いただきました。分からない問題も理解を深めることができました。

・過去問：第45回～第57回

- ・50回台は繰り返し取り組みました。

（４） 2回目（第58回）合格発表まで

- ・自己採点で一般は合格の見通し。合格発表の1週間前まで勉強は休止。
- ・合格発表の1週間前から中島俊夫著「よくわかる気象学【実技編】」に取り組みました。

（５） 3回目（第59回）受験まで

- ・3回目は一般、専門免除になり、実技に専念。
- ・仕事が以前より忙しくなり、勉強方法を見直しました。「短時間しか勉強できない時にすること」と「まとまった時間がある時にすること」を分類。
 - ＜まとまった時間がある時＞
 - ・過去問、ノートづくり（過去問や実技講座で間違えた問題と解答を分野別にまとめて記載）
 - ＜短時間しか勉強できない時＞
 - ・ノートの内容を復習、後述の「実技試験過去問解答例」をチェック。

・通学実技講座

- ・気象神社には早めに行き、暗記事項（地名、天気記号等）をチェック。
- ・前回の実技講座は挑戦する気持ちが大きかったのですが、2回目の実技講座ではトップをとることを目標としていました。
- ・実技講座の点数

1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
67点	90点	87点	90点	83点	84点

- ・「実技試験過去問解答例」（第30回以降の記述問題の解答のみをまとめた資料）には問題を書き込み、キーワードにはマーカーを引き、時間があるときに眺めていました。問題を書き込んでみると、どのような問いが多いのかも分かってきました。

・夢☆カフェ模擬試験（22 年 10 月～23 年 1 月）

- ・気象神社で開催された 12 月以外は自宅受験
- ・模試の点数（実技 1 と 2 の平均点）

10 月	11 月	12 月	1 月
79 点	83.5 点	67.5 点	80 点

・「よくわかる気象学【実技編】」

- ・基礎知識の確認のために何度も読みました。また、収録されている過去問は繰り返しチェックしました。内容が分かりやすく秀逸です。

・過去問：第 31 回～第 58 回

- ・試験で初見の図表を見ると慌てがちでしたが、第 31 回以降の問題を解いておけば、初見であっても“みんなが初見のはず”と思うことができ、今よりも落ち着いて取り組むことができるはずと考え、第 31 回以降はすべて解きました。
- ・30 回台：基礎知識を問う問題が多く、繰り返しチェック。
- ・40 回台：解きづらい問題が多く、ほぼ 1 回～2 回（初見の問題を無くすことを目的）
- ・50 回台：最近の傾向をつかむために非常に重要。特に直近 5 回分くらいは覚えるくらい何度もチェック。

3. 心掛けたこと

（1）勉強

- ・「今日、何のために勉強をするのか」なるべく目的を明確にしました。受験勉強は、苦手なところを見つけて徹底的につぶしていくことが重要だと思っており、「苦手なところに向き合うこと」「今日の勉強が、苦手克服につながっているのか」を意識するようにしました。
- ・試験では、知識だけでなくメンタルや注意力も問われていると思います。試験本番で慌てしまう要素は、極力摘み取るようにしました。（慌てしまう要素は個人によって異なると思いますが、自分をよく知り、準備することが大事だと思います。）

（2）体調管理

- ・仕事と勉強を両立させるのは本当に大変です。なるべくバランスよく食べ、睡眠時間は十分にとるようにしていました。勉強時間が短時間しかとれなくても、集中して取り組むことが大事だと思います。

4. 試験当日

- ・試験は 8 月と 1 月。とても暑い時期と、とても寒い時期です。冷房や暖房を加味して、脱ぎ着できる服装にしておくことが大事です。（1 月は厚着をしていきましたが、思いの外会場が暑く、のぼせ気味でした）
- ・実技試験の前には、机の大きさや傾きなどに慣れておくため、また試験問題と解答用紙、筆記用具の配置を確認しておくために、前回の試験問題と解答用紙、解答を持参し、解答をみながら解答用紙に転記していきました。

5. 最後に

- ・通学実技講座では、実技の基礎から応用まで本当に丁寧に教えていただきました。この講座に出会えたことに感謝し、自分を信じて勉強したことが、合格につながったのだと思います。
- ・合格した瞬間は、本当に嬉しかったです。勉強中は何度も辛いと思いましたが、頑張ってきてよかったなと心から思いました。